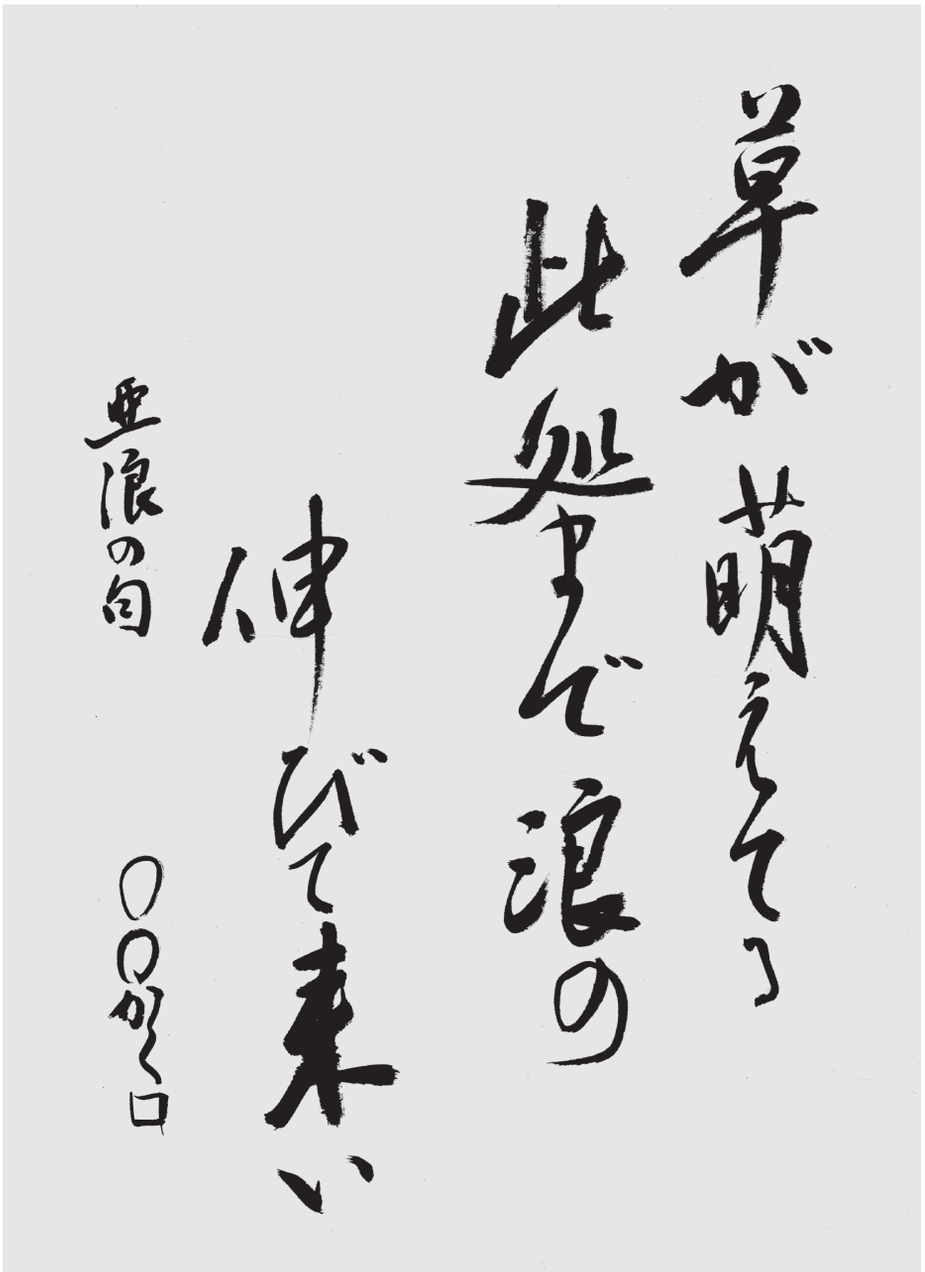
調和体を書く（17）

締切り　五月二十五日（必着）



奥村憲照先生書

◆書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり書」の三つがあります。

◆現代日本の文章表現は全て漢字かな交じり書ですが、ここでは芸術的創作作品を指し、「調和体」「近代詩文」として書展の一部門を占めています。

◆読める書として人気を高めていますが、古典といわれるものがない故に書法はまだ確立しておらず、各団体で新和様・新書芸などのいろいろな呼称で研究が進められています。

◆今回のお手本は、前会長奥村憲照先生が（財）日本書道教育学会に関係していた頃の新和様（しんわよう）のお手本です。本誌初登場です。

◆読めてかつ、書格の高い作品を目指して研究してまいりましょう。

〔読み〕

草が萌えてる此処まで浪の
伸びて来い
亜浪（あろう）の句

〔解説〕

①可読性を大切に。
②変体仮名・連綿はなるべく控える。
③構成を工夫してみよう。
※落款（署名・捺印）は、作品の一部としてバランスよく収めて下さい。「○○かく」は、ご自分の名をお書き下さい。印のない方は、上掲手本のように赤ペンで書き入れて下さい。

◻作品の出し方

▼硬筆部＝B5判（二五七㎜×一八二㎜）以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。（黒色に限る）

▼毛筆部＝半紙に書いて下さい。（筆ペン可）

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼**事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績・毛筆の場合は毛筆漢字の成績**）を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

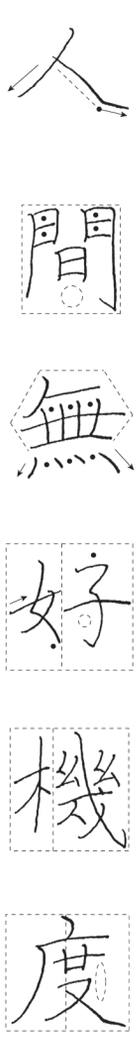
一般部規定課題

締切り　５月２５日(必着)

新入から１級まで

人間の一生には
また と無い好機が
一度は訪れる

〔解　説〕



大谷清城（おおたにせいじょう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★人間の…（書体＝楷書）

遠藤周作（一九二三～一九九六）

小説家

例えば人生を一つのレースだと考えた時、『勝負所』があり、その見極めが出来るかどうかが、このレースの命運を大きく左右することでしょう。

その勝負所の発見はこのレースの全てが勝負なのだと考えていなければ、訪れた好機を逃すことになるでしょう。

◆**6月課題予告**（行書）

全ての大偉業が
最初は不可能な
事柄だと言われた

★憤怒（ふんぬ）を…（書体＝行草または草書）

セネカ（前四～六五）

古代ローマの哲学者

他人が怒って我を忘れている様子を冷静に観察してみれば、怒って怒鳴り散らしたり、乱暴な行動をとったりすることの愚かさがよくわかります。

自分が怒りで我を忘れそうになった時に思い出してみれば、怒りを抑えることが出来るのではないでしょうか。

◆**6月課題予告**（楷書）

成功に至る第一歩は
心が何を望むのか
見つけ出すことです

▼教範・書範＝行草または草書

▼師範＝行書

準初段から六段まで

憤怒を抑えるには
他人の怒れる時に
静かに観察する事

〔解　説〕

岡田龍芳（おかだりゅうほう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

◎今月は行草です。行草は形体、運ペン空間等を考慮して自分らしさを表現して書いて見るのも良い。

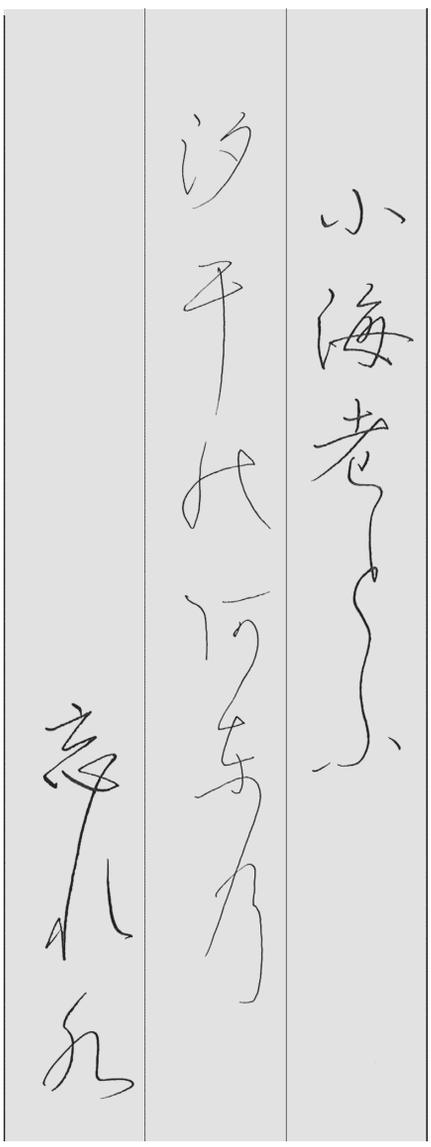
〔解　説〕

〔読み〕憤怒を抑えるには　他人の怒れる時に　静かに観察する事

一般部かな課題

締切り　5月25日（必着）

準初段から六段まで



小海老飛（と）ぶ汐干の跡（能阿東乃）の忘れ水

田中貴光（たなかきこう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

新入から１級まで

小海老飛（えひ）ぶ汐干（登不し保）の跡（農あと）の忘（王す）れ水（連）

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

田中貴光（たなかきこう）書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

小海老飛（えび）ぶ汐干（しほひ）の跡の忘れ水（みづ）

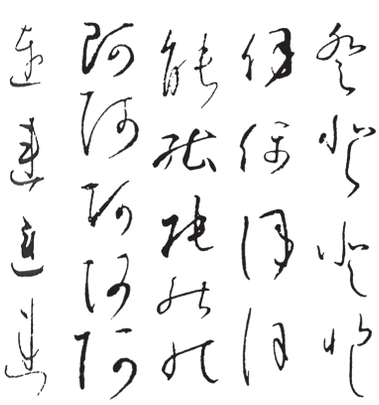
（勝見二柳（かつみじりゅう））

〔句解〕陽（ひ）ざしも時に汗ばむほどの暖かさ。潮が沖に引いたあとに点々と残る忘れ水が光る。よく見るとその忘れ水に小さい海老が飛んでいる。

〔鑑賞〕安永五年（一七七六）に刊行された『津守船（つもりぶね）』に千代女（ちよじょ）・与謝蕪村（よさぶそん）などの知名俳人の句と共に、この句が収められている。沖の遠くまで潮が引くと、人々は潮干狩を楽しんだ。忘れ水に小海老（えび）が飛びはねる二柳の目は、生きている証（あかし）として小海老に注がれているやさしい眼差（まなざ）しが感じられる。

〔古筆参考〕

登（と）　保（ほ）　能（の）　阿（あ）　連（れ）



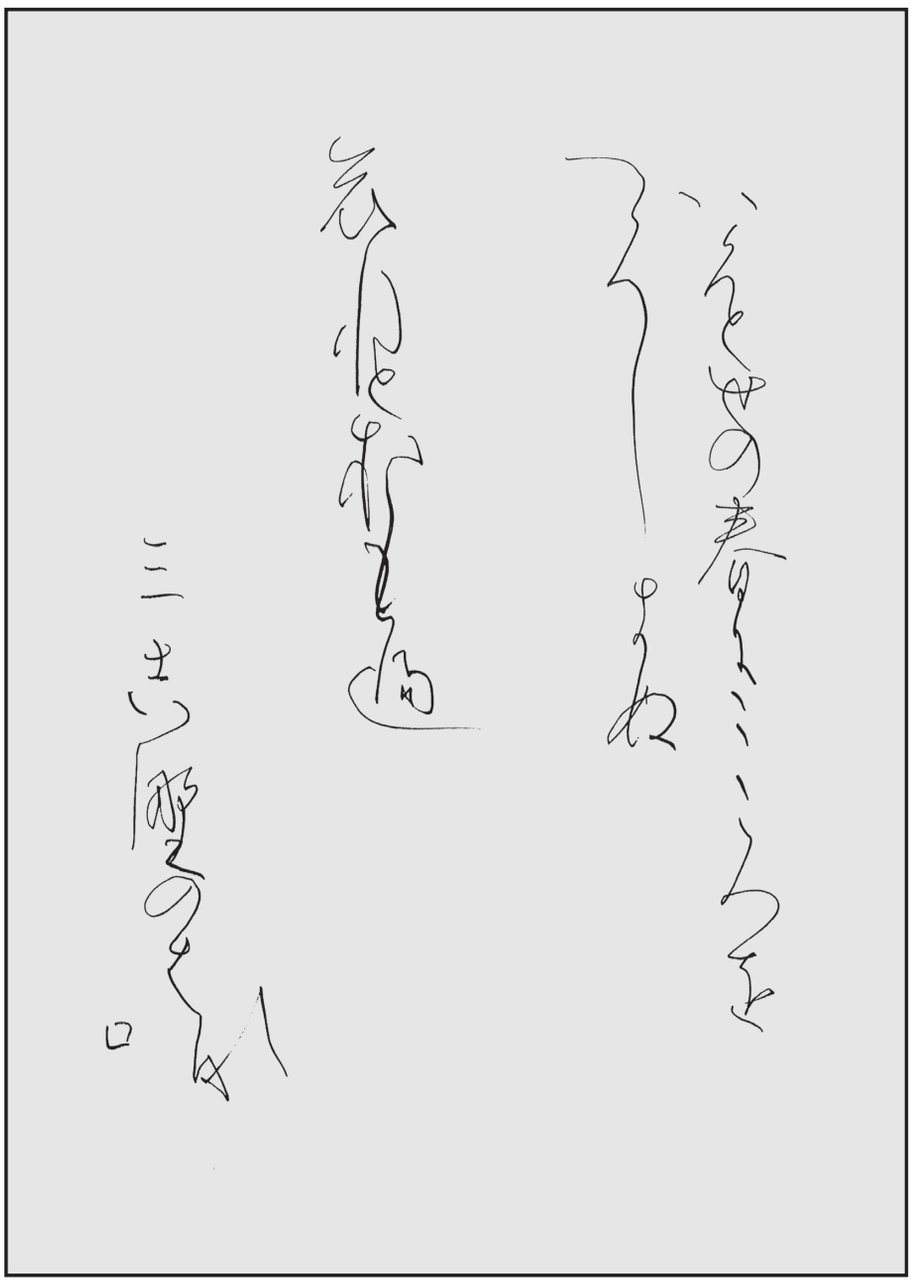
〔解説〕「[illegible]」の東の最後の画と乃の最初の画を兼用して、同じ太さの実線で書きます。「[illegible]」も同じように書きます。

◆6月課題予告

古郷（ふるさと）やよるもさはるも茨（ばら）の花

（小林一茶（こばやしいっさ））

締切り　五月二十五日（必着）



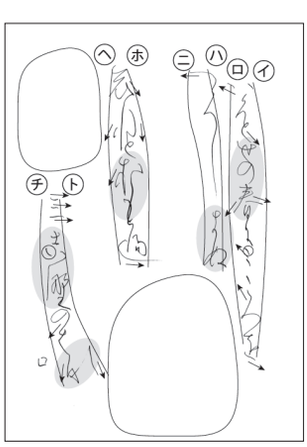
簗瀬舟香（やなせしゅうこう）書

いく久とせの春に心（尓こころ）をつくしきぬ支
あはれと思（於も遍三吉野）へみよしのの花者那

〔歌意〕 いったい幾年、春がめぐってくるごとに心を労してきたことか。このわたしをかわいそうだと思ってくれ、み吉野の花よ。

〔出典〕 新古今和歌集
（新潮日本古典集成）

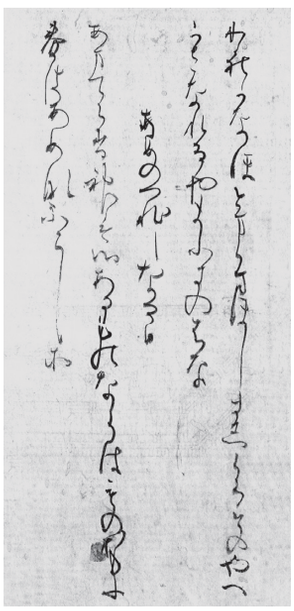
〔解説〕



- イとロ、イとニ、イとヘ、イとチ、ハとホ、ハとチ、ホとチ、それぞれ呼応。
- ●密の動き大切。
- ／の方向注意、大切。
- ○余白を大切に。余白が密の動きを生かす。

〔古筆参考〕

和泉式部続集切（いずみしきぶぞくしゅうぎれ）



われがなほとまらまほしきしらくものやへ聴可万万支志久毛
かさなれるやまぶきのはな可支者
　あめのつれ〴〵なる日
あまてらす神も心あるものならばものおもふ万春毛心能毛於
春はあめなふらしそ那所

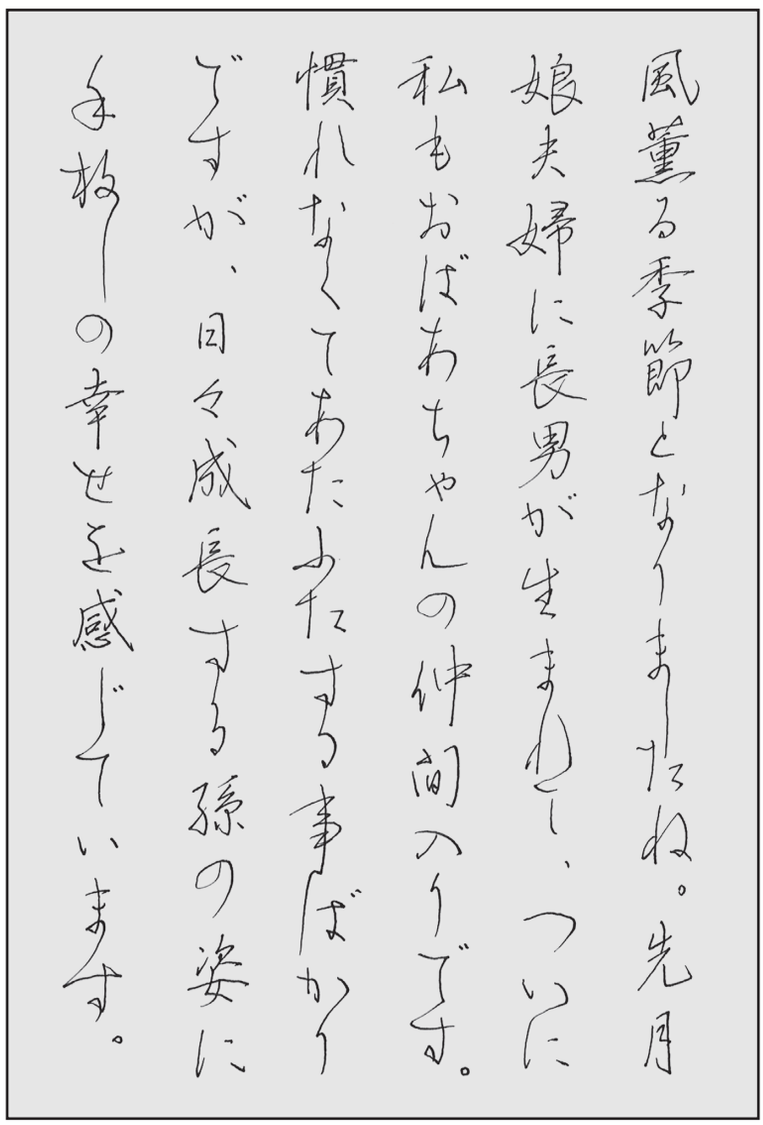
◆6月課題予告

昔思ふ草の庵（いほり）のよるの雨に
涙な添へそやまほととぎす

実　用　文
のページ

はがき課題

奥田三雲（おくだみくも）書



◎手本は水性ボールペン使用

締切り　5月25日（必着）

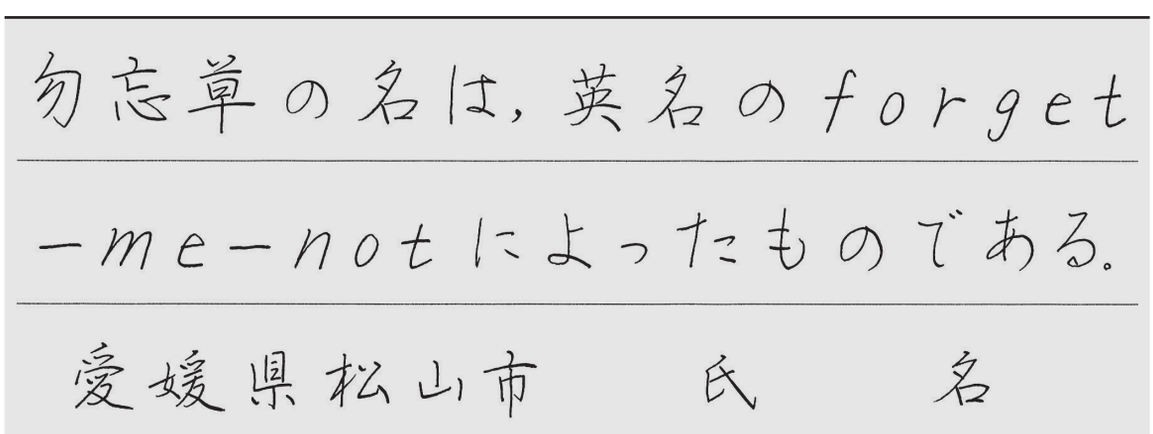
風薫る季節となりましたね。先月娘夫婦に長男が生まれて、ついに私もおばあちゃんの仲間入りです。慣れなくてあたふたする事ばかりですが、日々成長する孫の姿に手放しの幸せを感じています。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙＝はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具＝はがき、横書き課題ともに自由。（黒色に限る）
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横書き課題

尾郷翠光（おごうすいこう）書

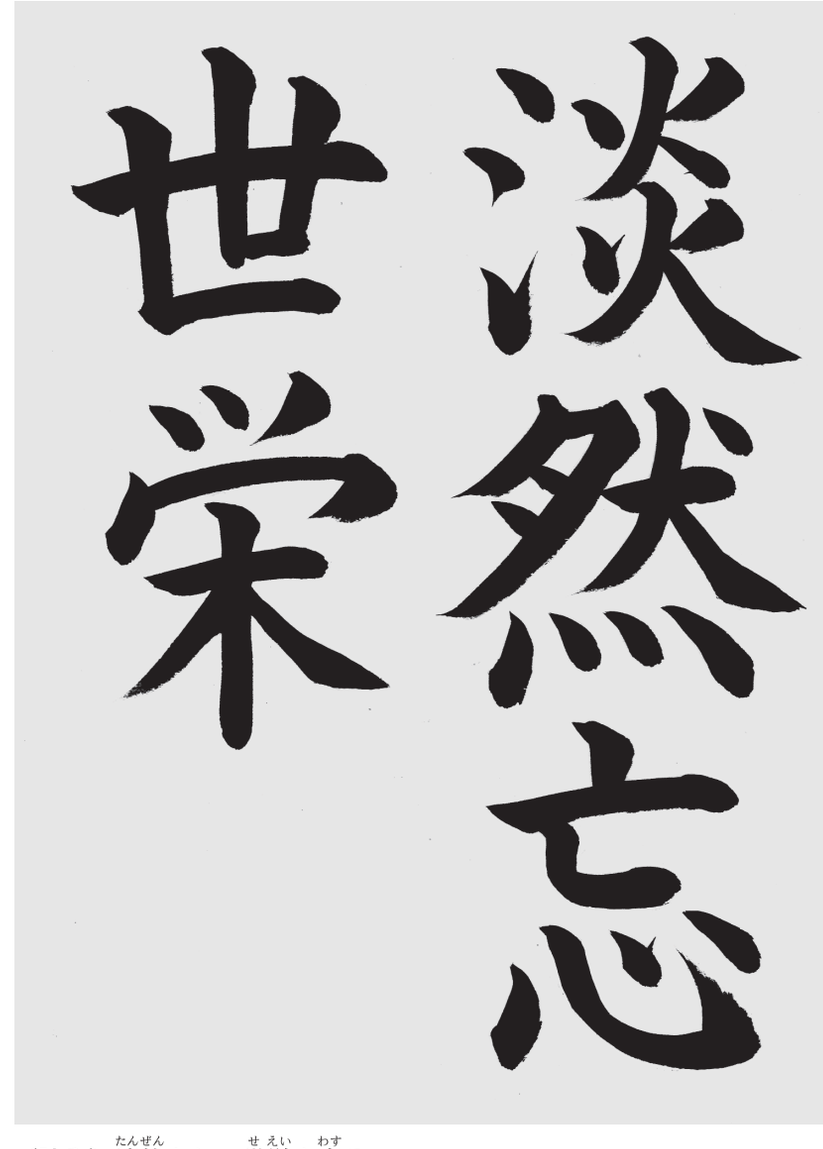


※手本はつけペン使用。　★三行目は、**指定の地名**と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り　5月25日(必着)

新入から1級まで（楷書）

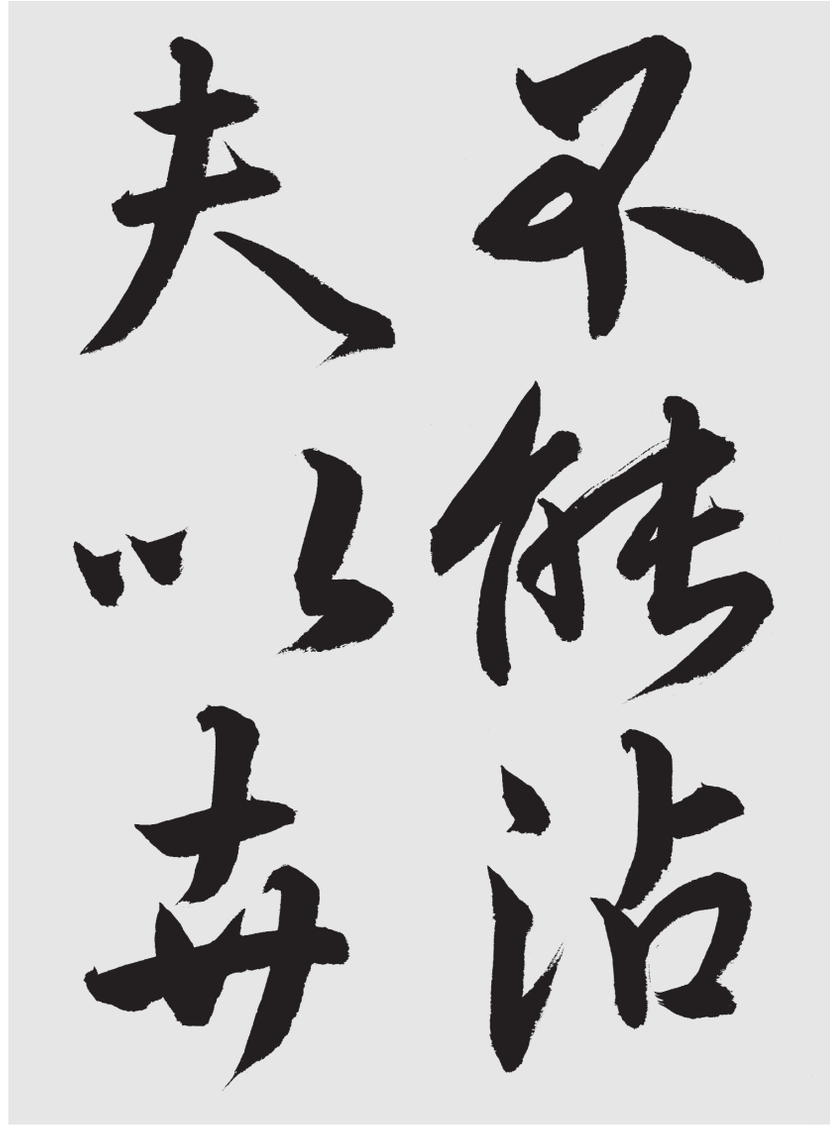


須田一葉書

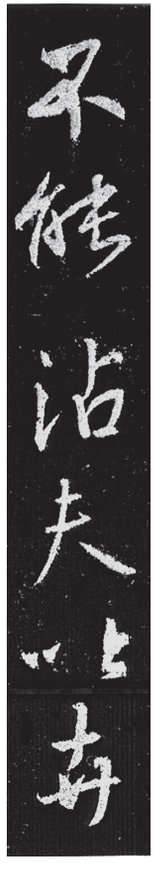
〔読み〕淡然(たんぜん)として世栄(せえい)を忘(わす)る

〔大意〕淡々として世俗の栄華を超脱し、さっぱりとした心境。

準初段から師範まで



奥村暢之(おくむらのぶゆき)臨



不能沾夫以卉

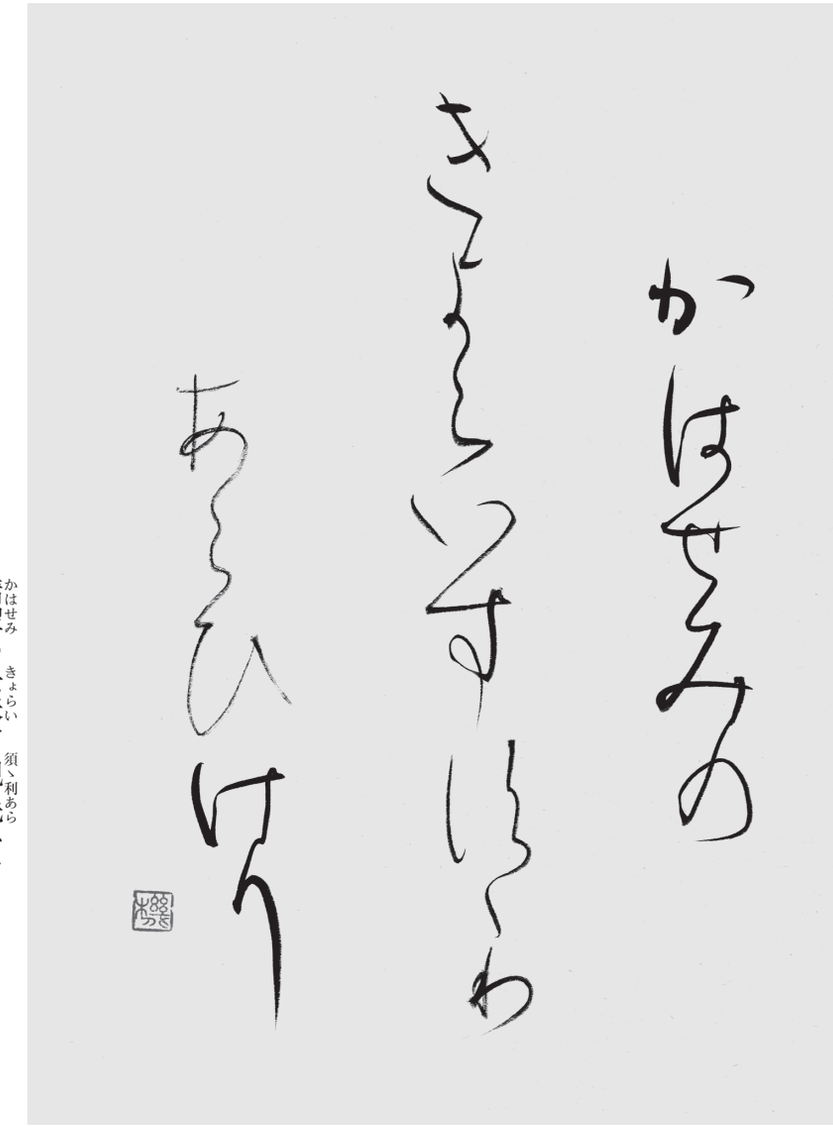
〔出典〕集字聖教序（672）〔筆者〕王羲之法書より集字

〔読み〕沾(うるお)すこと能(あた)わざるに（由(よ)る。）夫(そ)れ卉(き)（木(ぼく)の無知(むち)なるを）以(もっ)てすら、

一般部毛筆かな課題

締切り　5月25日(必着)

新入から1級まで



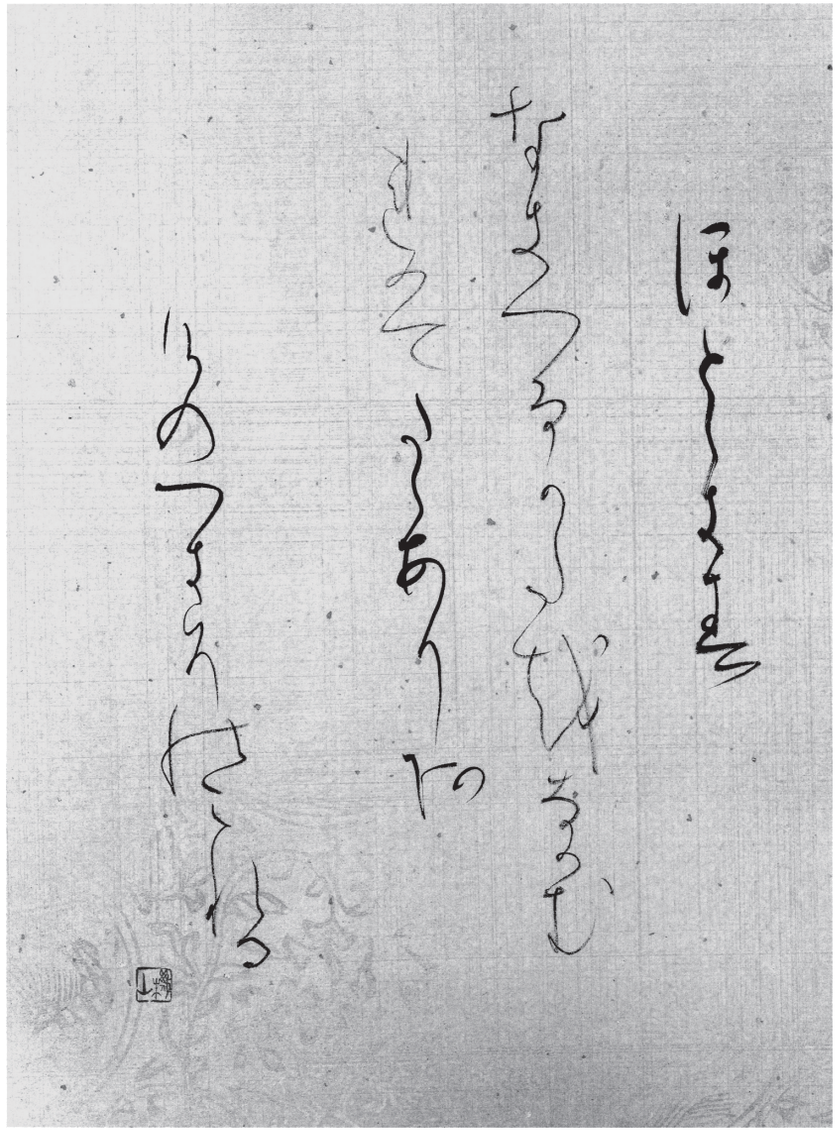
浅井機山(あさいきざん)先生書

〔出典〕水原秋桜子(みずはらしゅうおうし)

〔句意〕清流に翡翠(かわせみ)が魚をねらい飛んでいる。岸辺で硯を洗っていたが、その姿にみとれていたのである。仕事の後の開放感、爽やかさの表れた句。

翡翠(かはせみ)の去来(きょらい)す 硯(須ゝ利あら)洗ひけり

準初段から師範まで



ほととぎす鳴きつる方(可多越奈可)をながむれば
ただ有明(多ゝあり阿介)の月ぞ残(つ支曽能こ)れる

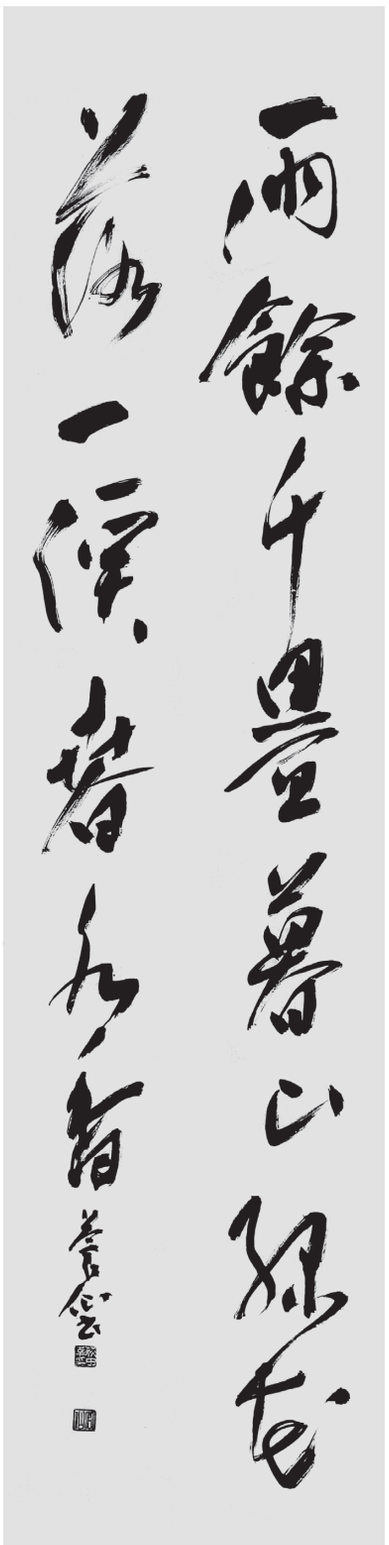
■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

〔出典〕藤原実定(ふじわらのさねさだ)

〔歌意〕ホトトギスの鳴いた方角を眺めると、明け方の空には、ただ有明の月だけが残っている。

一般部毛筆条幅課題

締切り　五月二十五日（必着）　**半　切**（一三六㎝×三五㎝）



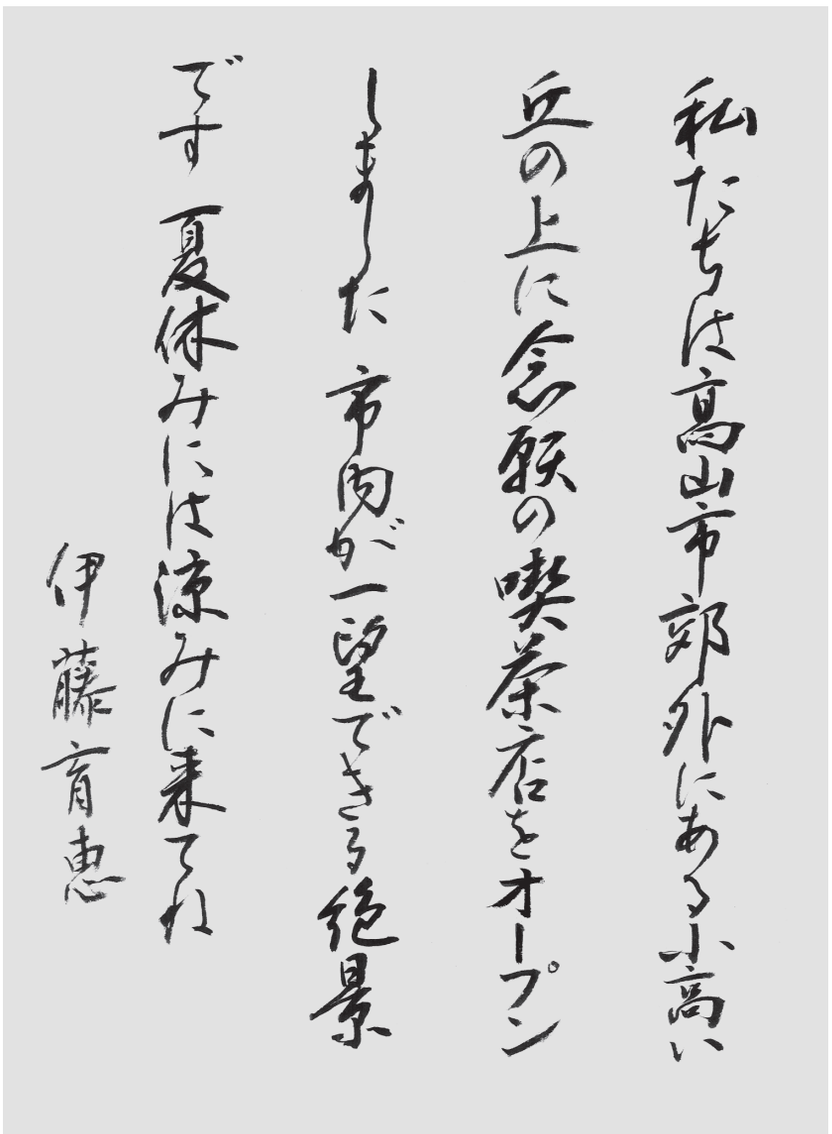
荻田蒼仙書

雨餘千畳暮山緑（うよせんじょうぼさんみどりに）
花落一渓春水香（はなおちいっけいしゅんすいこうばし）

〔大意〕雨上がりの暮の山は幾重も重なりあって緑に、谷川一面に花は散りしいて水までがにおう。

初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

一般部毛筆細字課題



半紙（３３４mm×２４０mm）

樋田玲華（といだれいか）書

〔条幅解説〕雅印の赤色は生命を与えることを意味します。何回捺せば手本（制作時に捺してくれたもの）とそっくりになるか……過ぎれば冴えがなくなります。印矩（いんく）を使ってもブレる事があります。篆刻作家の線（画）は芸術そのものです。雅印の捺し方一つで実力を見られます。要は平素、捺して慣れることです。

私たちは高山市郊外にある小高い
丘の上に念願の喫茶店をオープン
しました　市内が一望できる絶景
です　夏休みには涼みに来てね
（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

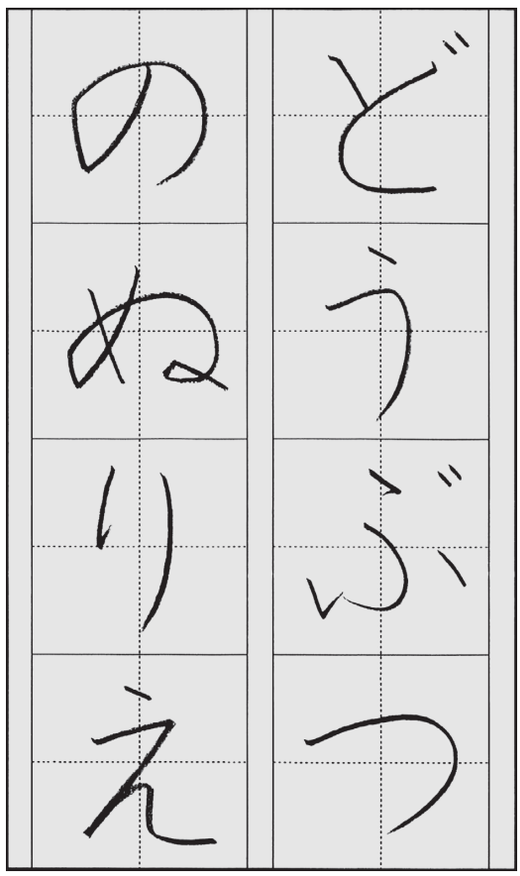
〔条幅・細字作品の出し方〕

■新入から師範まで、どなたでも出書できます。
■成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
■書体変換、変体仮名の交換は自由です。

教育部硬筆課題（きょういくぶこうひつかだい）

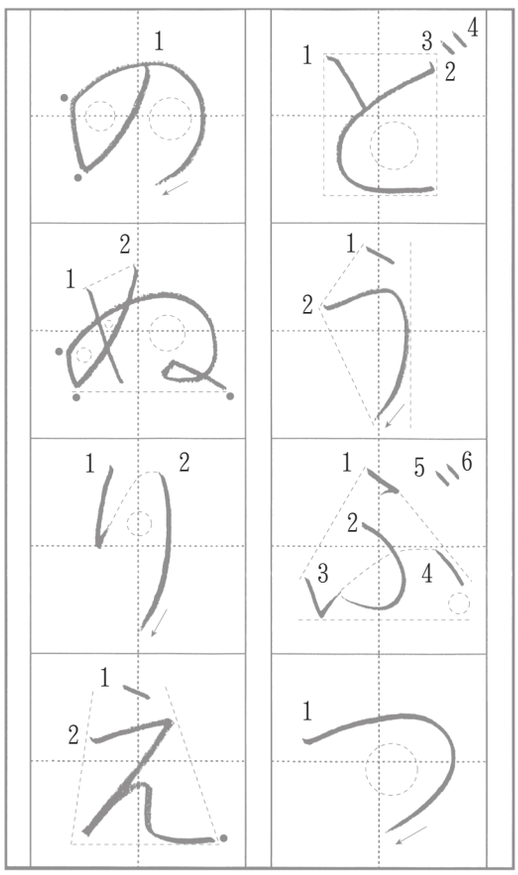
しめきり　５月２５日（必着）

よう年



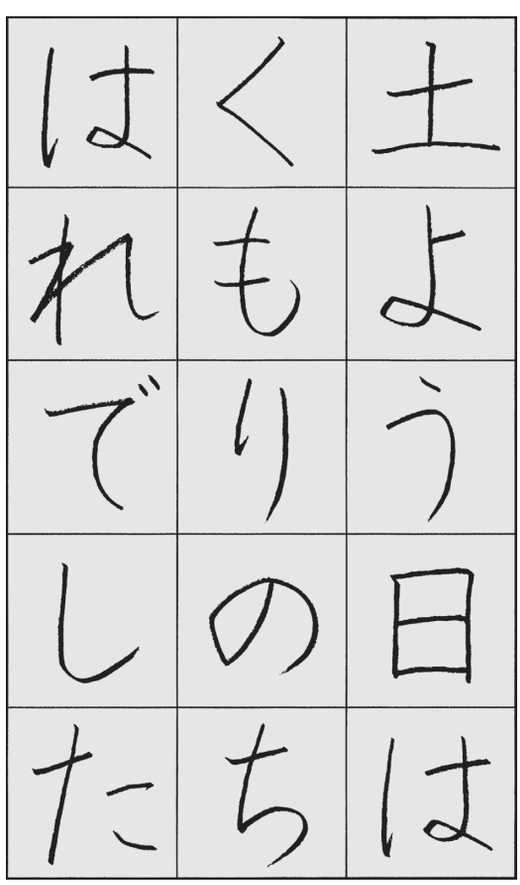
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員８マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング（なぞってかいてみよう）



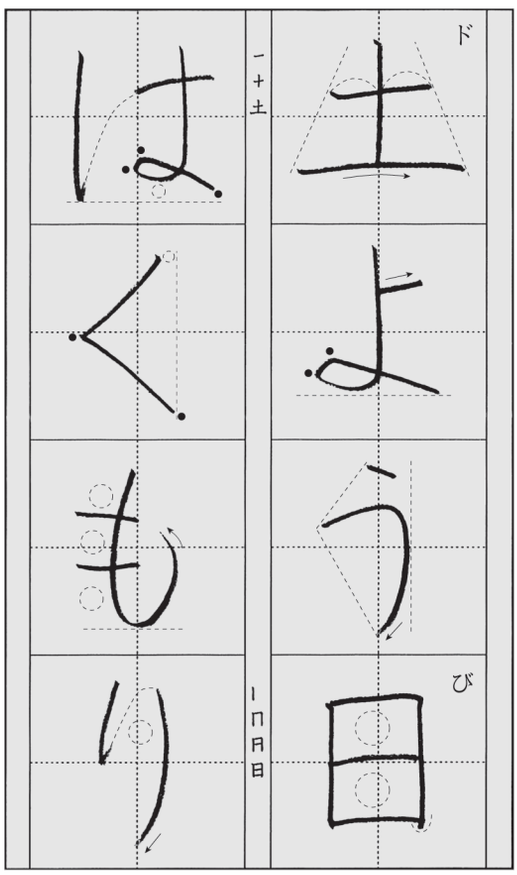
〈ようぐ〉自由（黒色にかぎる）

小一年



準初段以上

（注）えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



新入～１級

幼年～小三年まで　三宅容玉（みやけようぎょく）書

教育部硬筆課題（きょういくぶこうひつかだい）

しめきり　５月２５日（必着）

小二年

準初段以上

校門の前に
立ち声かけを
する先生

小三年

準初段以上

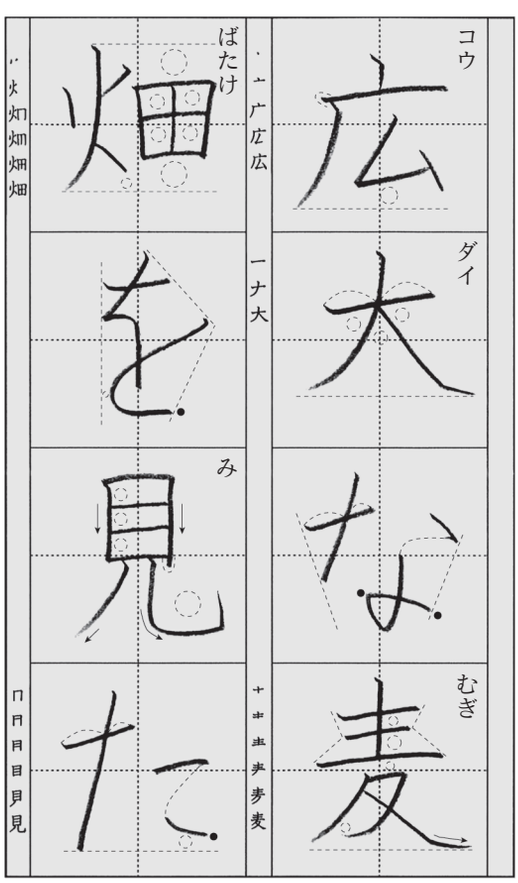
北海道の広
大な小麦畑
を見ました

（注）えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈ようぐ〉自由（黒色にかぎる）

新入～1級

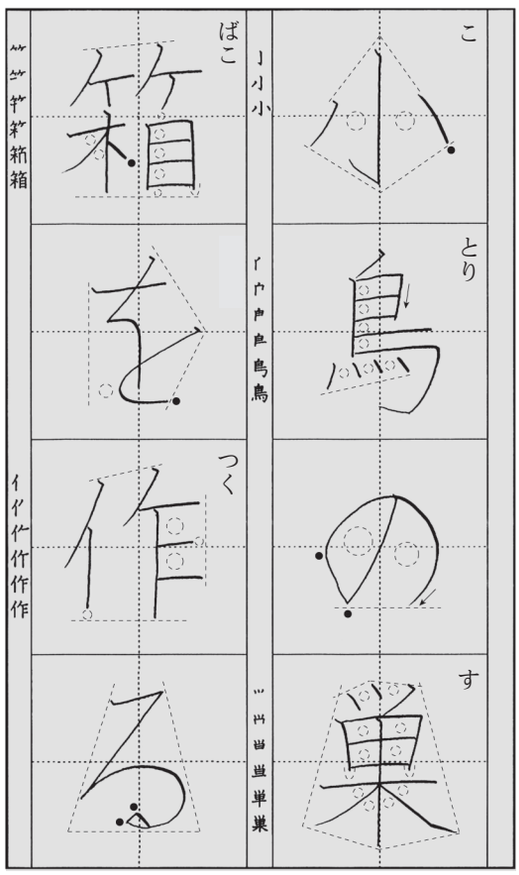
新入～1級



教育部硬筆課題

しめきり　５月25日(必着)

小四年



（全員）

新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

＊用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。

＊六月締切り分までは、この方法を続けます。

＊ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。

＊七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

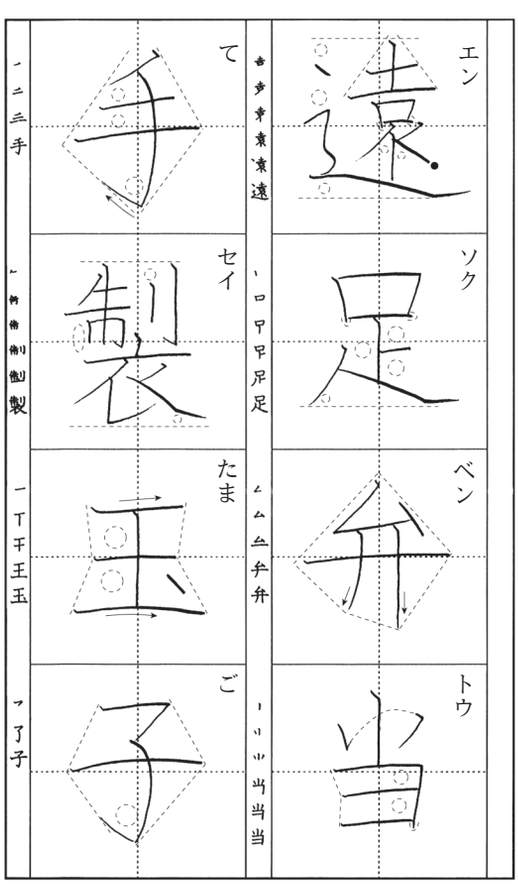
〈用具〉自由（黒色に限る）

小五年

（全員）

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説（よく見て習いましょう）



小四年以上　岡嶋桂川書

教育部硬筆課題

しめきり　５月25日(必着)

小六年

優	秀	な
技	術	を
集	結	し
建	設	さ
れ	た	橋

（全員）

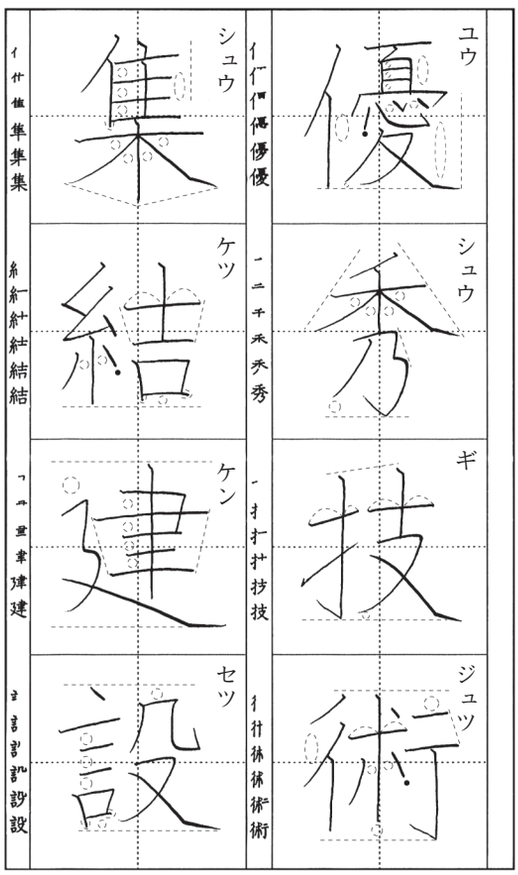
中一年（楷書）

偉	人	の
伝	記	を
中	一	の
間	に	十
冊	読	む

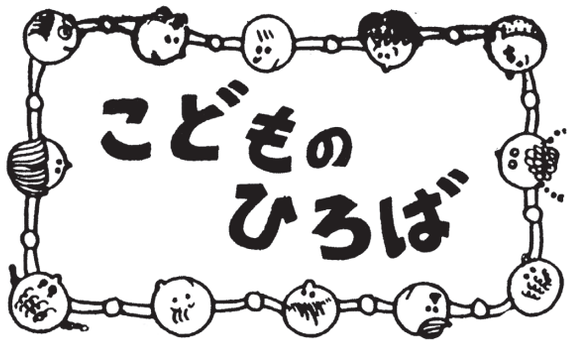
中二・三年（楷書）

介	護	に
適	し	た
住	宅	へ
改	修	工
事	す	る

解　説（よく見て習いましょう）



〈用具〉自由（黒色に限る）



しめきり　５月２５日（必着）

▼小三年以下の課題　　佐々木小泉書

母の日は
カーネーションと
感しゃの
手紙を書いて
わたします

◎お手本はえんぴつ使用

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題　　永谷恵子書

月曜日の朝は
校庭に出て
校長先生の
お話を静かに
聞きます

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
一、成績は評価により毎月変わります。
一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。**貼っていない方は新入とみなします。**

教育部毛筆課題

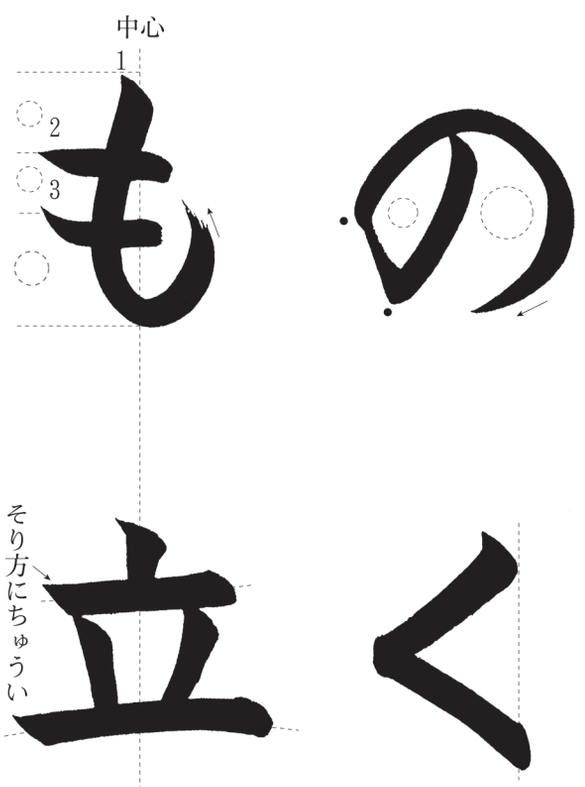
しめきり　5月25日（必着）

幼年〜小二年　玉樹小華書

小二

さい

小一



小三

小五

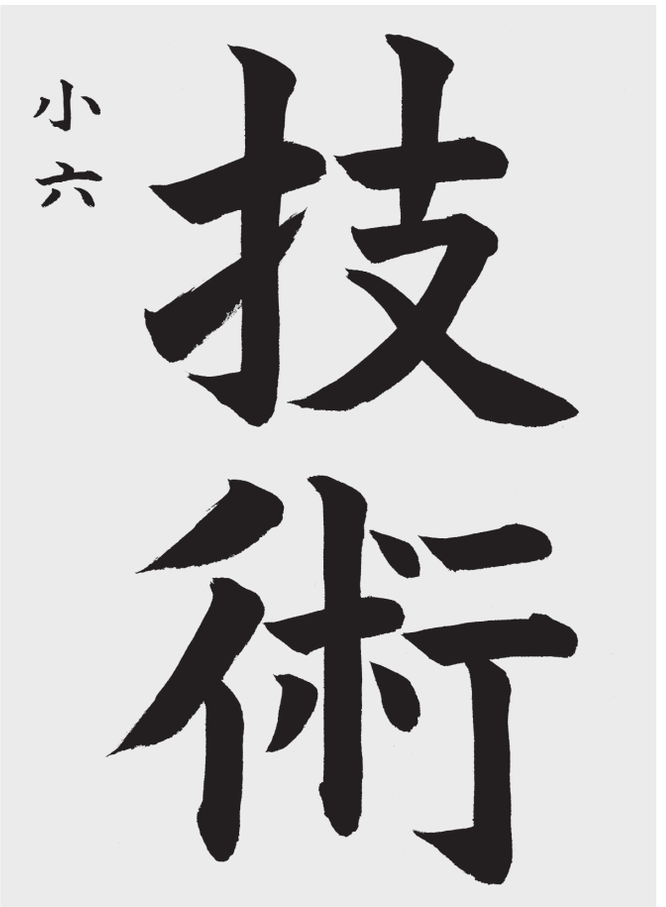
小四

※「ム」は中心より外に

※間を等しく

小三～小五年　水野香竹書

小六



中二・三

小六～中二・三年　奥村暢之書

中一